

2023（令和5）年度 東北アジア研究センタープロジェクトユニット報告書

提出 2024(令和6)年4月19日

代表者 寺山 恭輔

(本報告書はセンター内外への公開を原則とします)

研究題目	日本語：20世紀前半ユーラシア史再考研究ユニット 英語：Reconsiderations of Eurasian History (first half of the 20-th century)	
研究期間	2023（令和5）年度～2027（令和9）年度（5年間）	
研究組織 (センター教員・ 兼務教員・教育研究 支援者、RA等〔退 職した教育研究支援 者等は雇用期間を記 して記録するこ と〕)	氏名	所属・分野・職名
	寺山 恭輔	東北アジア研究センター
	上野 稔弘	東北アジア研究センター
外部評価者	氏名	所属・職名
センター支援	センター長裁量経費	0万円
	教育研究支援者（RA）	無
	研究スペース	無
ユニット組織設置目的と本年度の研究事業の成果の概要 (600-800字の間で専門家以外にも理解できるようにまとめてください。 Webなどで公開を予定しています。)	本ユニットは、スターリン時代のソ連及び蒋介石時代の中華民国を中心に周辺諸国も含んだ20世紀前半のユーラシア地域の情勢について、一次史料の発掘に基づき新たな歴史像を構築することを目的としていた。 ロシアに関しては、対ウクライナ戦争により渡航制限がかかり、当然、現地調査による史料収集はできなかった。将来的な見通しも立てにくい状況を考え、ユニットとしての活動はふさわしくないと考え直した。よって、初年度で活動を取りやめることとする。今後の研究のあり方については別途検討する。	
活動報告（研究集会や講演会などのプログラムを記してください。共同研究報告書に記載済みは除	研究集会を1回開催（2024年3月28日） 冬木里佳「『共産主義建設』と社会保険—1950年代後半のソ連における年金保障」 寺山恭輔「1930年代ソ連極東における動員政策」 コメント：オレグ・パホーモフ	

く)			
本年度のユニット運営を通じた実現した東北アジア研究センター組織への貢献についてアピール			
外部資金 (名称・金額)			総額 円
ユニットが運営する共同研究			
ユニット主催の研究集会・企画（共同研究報告書に記載していないもの）	研究会・国内会議・講演会など： 1 回	国際会議： 0 回	
	研究組織外参加者（都合）： 4 人	研究組織外参加者（都合）： 人	
学際性の有無	無	参加専門分野数：	分野名称：
文理連携性の有無	無	特記事項：	
社会還元性の有無	無	内容：	
国際連携	連携機関数：	連携機関名：	
国内連携	連携機関数：	連携機関名：	
学内連携	連携機関数：	連携機関名：	
教育上の効果	参加学生・ポスドクの数：	参加学生・ポスドクの所属：	
第三者による評価・受賞・報道など			
ユニット運営計画全体のなかでの当該年度成果の位置づけと今後の課題			

最終年度	該当 [無]

*ファイル名は UnitRpt_年度_代表者ローマ字 (例 UnitRpt_2020_takakura) とする。

<最終年度報告>

ユニットの最終年度には、数年間にわたる組織運営事業を全体を通して何を達成したのか、また東北アジア研究センターにとってどのような貢献があったのか、600-800字程度でまとめてください。図版不要。Webで公開します。

獲得外部資金 一覧 (年度、名称、 金額)	